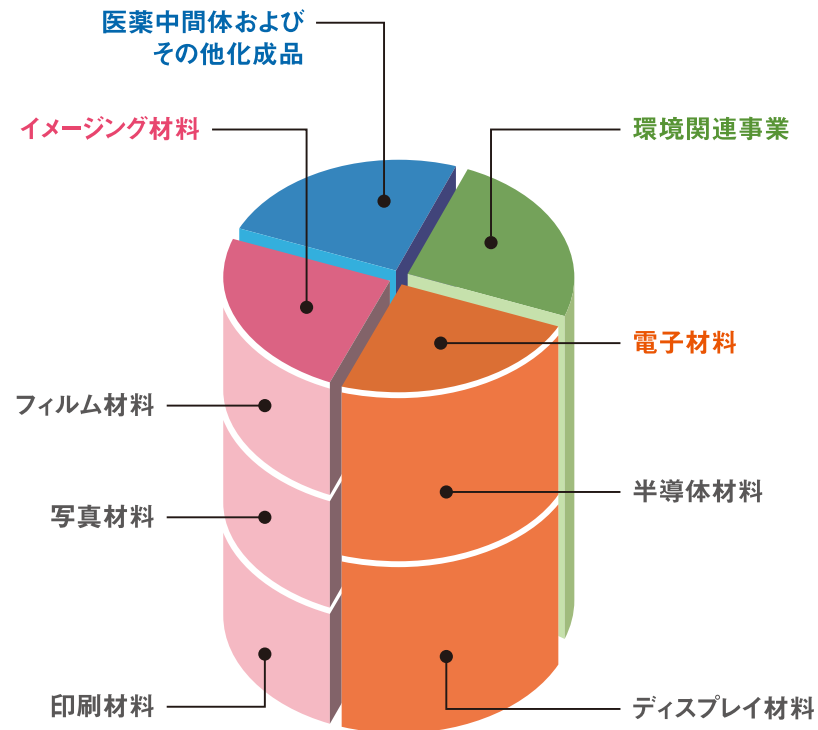


事業紹介

技術立社の基盤を支える 独自の発想、最新の設備・技術

「化学」が持つ「不思議なチカラ」を暮らしに、社会に、未来に役立つ「特別なチカラ」に変えていく。当社には、研究者が直接お客様のニーズをお聞きし、独自の視点、発想力と、歴史の中で蓄積した経験とノウハウを活かし、大量生産を可能にする技術力があります。そして、その「特別なチカラ」を生み出す設備群。安全・安心で高い品質を維持しながら、世の中に安定して送り出すために、品質保証、安全管理、および環境管理体制の構築。そのトータルな力が一歩先をゆく「スペシャリティ・ファインケミカルメーカー」、技術立社のダイソーケミックスを支えています。



事業ポートフォリオ (続き)

セグメント	2022年度 売上高構成比	主な製品	2022年度 振り返り
医薬中間体およびその他化成産品	9%	国内外製薬メーカー向け 医薬中間体	医薬中間体は、製品構成により、販売数量は減少しましたが、売上高は増加いたしました。その他化成産品は、製品構成により、販売数量、売上高ともに減少いたしました。
環境関連事業	9%	産業廃棄物処理、 化学品リサイクル	産業廃棄物処理分野は受託量減少により、売上高は減少いたしました。化学品リサイクル分野は、非電子部品関連が低調であったことから出荷量、売上高ともに減少いたしました。一方、電子部品関連は高価格製品が堅調に推移し、出荷量は減少したものの、売上高は増加いたしました。

事業ポートフォリオ

各セグメントの概況について

電子材料分野は、世界的な半導体材料の需要の拡大により、当社半導体材料も増加していましたが、2022年度下期から需要低迷による在庫調整の影響を受けております。イメージング材料分野では、コロナ禍からの回復傾向が継続し、インスタント写真の需要が回復しておりますが、フィルム用材料が電子材料同様に需要低迷しております。医薬中間体分野は、世界医薬品市場は拡大を継続しており、主力製品が堅調に推移しています。

セグメント	2022年度 売上高構成比	主な製品	2022年度 振り返り
電子材料	63%	先端フォトレジスト材料、i線フォトレジスト用感光性材料、光酸発生剤、カラーフィルター用材料、有機EL材料、永久膜用材料	半導体用感光性材料は、販売数量、売上高ともに増加いたしました。フラットパネルディスプレイ用材料は、新型コロナウイルス感染症の巣ごもり需要の反動等により、販売数量、売上高ともに減少いたしました。
イメージング材料	19%	フィルム用材料、記録材料、インスタントカラー用色材	フィルム用材料は、販売数量、売上高ともに減少いたしました。写真材料は、販売数量は減少しましたが、売上高は増加いたしました。また、印刷材料に関しては新規製品の増加で、販売数量、売上高ともに増加いたしました。

電子材料



2022年度の業績

売上収益

103億 32百万円 ↑ 前年度比 3.4%増

2022年度の振り返り

半導体業界は、下期に世界的な景気後退の影響を受け、一部で在庫調整の影響はありましたが、データサーバー、5G高速通信、車載用などの半導体需要の増加により、先端フォトレジスト材料、i線フォトレジストなどレガシー世代がともに引き続き堅調に推移いたしました。フラットパネルディスプレイ業界は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う巣ごもり需要の反動、世界的な景気後退により、上期から在庫調整局面となり、液晶・有機ELディスプレイともに需要は低調に推移いたしました。

2023年度の基本方針

半導体材料は一時的な需要低迷はありますが、将来的に需要の増加は継続するため、顧客のニーズに確実に対応してまいります。また、2023年3月に完成した電子材料工場の早期稼働と製造品目拡大を目指します。フラットパネルディスプレイ材料は、2023年9月完成予定の新規設備の早期稼働を目指すとともに、新製品開発を進めてまいります。

●重点的な取り組みについて

半導体やフラットパネルディスプレイの製造に使用されるフォトレジスト材料において、業界トップクラスのメーカーとの新しい材料の提案や共同開発を通じ、製品化に貢献しています。主力パネルメーカーの拠点がある韓国では、現地メーカーとの合弁会社により、シェアの拡大に努めております。液晶パネルの価格低下に対し、製造プロセスの効率化など積極的にコスト低減を図り、顧客の増加で需要の拡大を目指します。フラットパネルディスプレイ材料は、カラーフィルター用材料、永久膜用材料などの、高性能・高品質な材料開発を顧客とともに精力的に進めております。

イメージング材料



2022年度の業績

売上収益

30億 69百万円 前年度比 5.8%減

2022年度の振り返り

写真業界では、コロナ禍からの回復傾向が継続し、インスタント写真の需要が回復いたしました。印刷業界では、ペーパーレス化などの動きにより、縮小傾向が継続しております。

●重点的な取り組みについて

画像表示材料は、スマートデバイス等の材料にも使用されており、多岐にわたる用途への展開を目指しています。また、ディスプレイの高精細化に伴う高性能・高品質な材料開発を顧客とともに進めています。さらに、電子写真用や印刷用の記録材料の開発も手掛けており、新製品の試験生産から商用品の量産化の体制を整え、高品質な記録材料を提供するなど今後も主力製品群の拡販に向けて取り組んでまいります。

2023年度の基本方針

インスタント写真は堅調な需要に継続して対応します。フィルム材料は、中長期的な成長を見据えた新製品開発にも積極的に取り組みます。

環境関連事業



2022年度の業績

売上収益

14億 92百万円 前年度比 3.0%減

2022年度の振り返り

環境関連事業につきましては、産業廃棄物処理分野では、製造業の生産調整などにより、排出量が減少いたしました。化学品リサイクル分野では、電子部品関連が活発な動きで推移いたしました。引き続き産業廃棄物のリユース、リサイクルへの関心は、高くなってきております。

●重点的な取り組みについて

産業廃棄物処理分野では、処理が難しい廃液に関する処理技術の開発に取り組んでおります。化学品リサイクル分野では、リサイクルが難しい廃溶剤のリサイクル技術の開発および廃棄物として処理されていた化学品のリサイクル技術の開発に取り組んでおります。さらに、化学品のリサイクルでは、コンサルタントや試験生産設備を活用して、新製品開発を推進しております。また、工程改善やリサイクル率のアップなどの原価低減や品質の維持向上にも注力しております。

2023年度の基本方針

産業廃棄物処理技術や薬剤リサイクル技術および有機溶剤の回収技術を活用し、受託の確保に努めてまいります。処理技術を向上させ、産業廃棄物処理分野や化学品リサイクル分野の開発力や競争力を高め、岸和田工場、明石工場を中心とした事業展開を推進してまいります。

CSR基本方針 CSR Policy

CSR基本方針

当社は、社会の発展に貢献し、社会の期待に応え、社会から高い信頼をいただける会社を目指し、企業存続の根幹をなす法令遵守を始めとした企業倫理活動と「モノづくり」に欠かせないレスポンシブル・ケア活動を二つの柱とし、CSR活動に取り組んでいます。

	主な活動	関連するSDGs	掲載ページ
E 環境	省エネルギー・省資源	6 安全な水と衛生を確保する	▶ P21
	廃棄物管理	7 再生可能エネルギーを拡大する	▶ P22 ~ P24
	化学物質の適切な取り扱い	9 産業と資源効率を高める	▶ P22 ~ P24
S 社会	法律、規制、要求事項等を遵守	11 住み続けられるまちづくりを	▶ P25
	職場の安全衛生、ハラスメント	12 つくって消費する責任を	▶ P25 ~ P28
	人材育成	10 公平な社会を築く	▶ P27
G ガバナンス	法律、規制、要求事項等を遵守	16 平和と公正な社会を築く	▶ P29
	内部統制システム	17 パートナーシップで目標を達成しよう	▶ P30
	情報の管理・保護		▶ P30 ~ P31

医薬中間体およびその他化成品



2022年度の業績

売上収益

14億 82百万円 前年度比 10.1%増

2022年度の振り返り

医薬品業界では、世界医薬品市場は拡大を継続しており、低分子薬も再び活気を取り戻しております。国内医薬品市場も安定調達を目的に、中国などから国内に回帰する動きを強めております。

●重点的な取り組みについて

ファインケミカル製品の開発で培ってきた技術力の活用と新規技術の積極的な導入により、主に国内外の大手製薬メーカーなどからの受託製造を進めています。開発活動においては、市販原薬および試験薬など様々なステージにおける中間体の開発に取り組んでいます。迅速な対応が求められる納期および品質への対応や、コストダウンに向けた製造プロセスの提案など、顧客ニーズに合致した開発活動を継続してまいります。

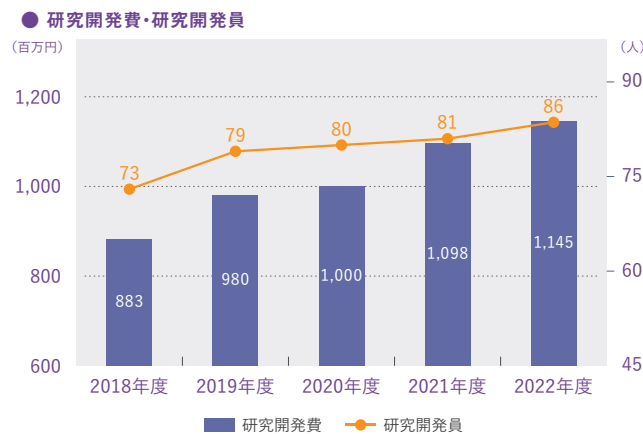
2023年度の基本方針

顧客の安定した需要に対して、当社主力製品の安定した提供を継続します。将来的な新製品開発などにも対応できるよう人材育成にも取り組みます。

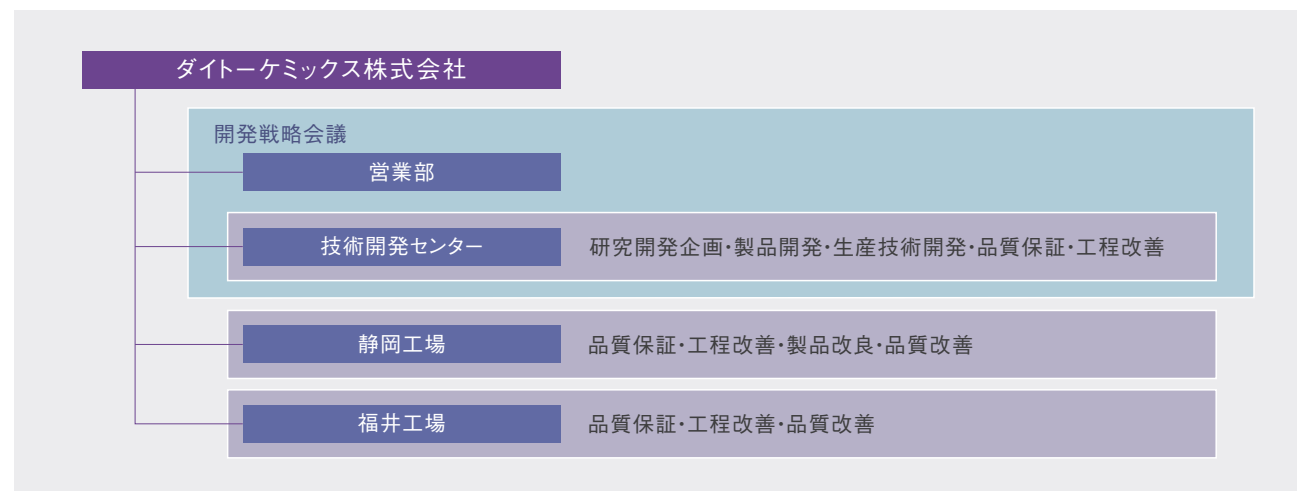
研究開発

SDGsを意識したイノベーションによる 競争優位性の高い革新的製品 および技術の開発を推進

電子材料は、当社の主な事業分野であり、半導体集積回路のさらなる微細化、自動車のエレクトロニクス化、スマートフォンやタブレット端末等のスマートデバイスの需要により、今後も成長が見込める分野です。微細化に向けた最先端のA r F 液浸材料およびEUV材料開発においては、顧客の開発スピード・高度化する品質要望にタイムリーに応えるため、技術開発センターの試作ライン、福井工場の量産化専用ライン、そして極微量元素分析装置の充実を図るなど、少量試作から、量産までの一貫した製品開発に積極的に取り組んでいます。日々高まる顧客からのコストおよび品質要望に対し、技術開発センターで開発された製品の競争力をより強固なものとするために、長年培った合成技術と最新の知見に裏付けされた量産化技術とを融合させた生産技術力を駆使し、究極的な製造法の確立を目指し改良研究を行っています。製品のコストおよび品質競争力は、生産過程を総合的に作りこむことで達成しています。また、法的、社会的要請も遵守し、ISOなど品質システムに基づきつつ、さらなる品質向上とコストダウンを推進するとともに、製造責任を果たしていきます。



● 研究開発体制図



VOICEインタビュー



技術開発センター
電子材料開発グループ
主任
空中 雅子

開発に対する思い

私の所属する部署は主に最先端フォトレジスト材料の開発を行っています。過去からの知見や経験を基に最短時間でのラボ検討～工場試作へとつなげています。スピード感を重視した検討スケジュールの中で、グループ員が協力し合いながら進められるように、グループ員のマルチスキル化も目指しています。またスピード感だけでなく、品質の良い製品を安全に製造できるように検討を進めています。

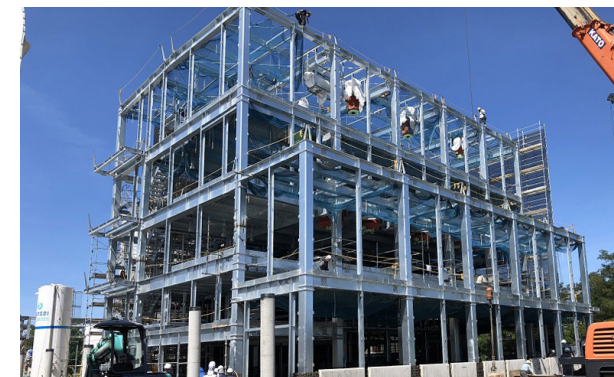
DAITO CHEMIX NEWS

電子材料工場建設

半導体レジスト材料の生産能力を大幅に増強し、半導体市場の拡大に対応していきます。

半導体はスマートフォンやデータセンターに使われる最先端なものだけでなく、電力制御や自動車のEV化に使用される世代のものもあり、その用途は幅広く、長期的な成長が見込まれます。半導体市場の拡大に対応するため、福井事業所内に4棟目となる新工場が2023年3月に完成しました。2001年に3棟目の工場を建設して以来、22年

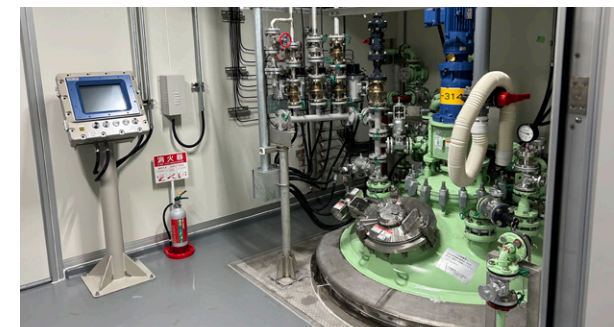
振りの新工場建設となりました。工場建設には着工から約1年間を要しましたが、計画通りに工事を行うことができました。2023年3月21日に施工業者と当社にて竣工式が執り行われ、新工場の完成を祝うとともに安全操業と繁栄を祈願しました。



建設時の新工場(2022年7月)



完成時の新工場(2023年3月)



新工場作業エリアの一部

新工場で製造する半導体材料には厳しい品質管理が求められています。特に、製品中の金属含量は1ppb未満、今後は更に厳しい規格に対応する必要があります。新工場では半導体材料の中でも先端材料の供給に対応するため、各反応機エリアはクリーンルーム仕様とし、異物混入の防止対策を講じております。品質規格が厳しい材料を製造するため、製造前準備には当初予定以上の期間と労力を要しましたが、4月から製造を開始しております。今後も高品質な製品を安定的に提供し、顧客満足度向上を図るため、継続的な改善活動に取り組んでまいります。

Director message

電子材料分野の主力工場の一つとして、 今後の企業成長への大きな貢献を果たします。

新工場の建設は、電子材料分野の拡大を図る中で、顧客から半導体材料、特に先端材料に関して生産能力の増強を求められた背景もあり、金属管理を含め実績のある福井工場に建設する運びとなりました。先端の半導体材料の量産工場として低金属への対応が可能な機器を選定し、環境面ではクリーンルーム仕様にするなど高品質要求に対応した工場です。新工場は、今後も成長が期待される電子材料分野の主力工場の一つと考えています。今後のダイトケミックスの成長に大きく貢献してくれることを期待しています。

取締役
執行役員
えとう たくみ
衛藤 巧



技術開発センター

所在地 大阪府大東市諸福八丁目3番11号 従業員数 77人(2023年6月1日現在)

新製品開発の拠点

技術開発センターは当社の新製品開発の拠点であり、新製品の研究開発とパイロット試作を担当しています。技術開発センターが立地する大阪事業所は当社創業の地であり、長らく当社製品の製造や会社発展に寄与してきました。しかしながら、事業所周辺の都市化が進行するに従い、操業形態を量産工場から開発支援工場に転換し、2010年に主として新製品の開発と試作を行う技術開発センターに生まれ変わりました。技術開発センターは都市部に立地していることから、周辺にお住いの皆様との共存共栄を目指して、安全第一と環境負荷低減を最重要視した操業に取り組んでいます。また、事業

展開に当たってはISO 9001やISO 14001に基づき、品質と環境を高度に調和させた活動を行っています。



地域・社会への貢献

技術開発センターは住宅や教育機関、病院等が密集する都市部に立地しています。そのため、環境モニター制度を設けて、事業活動の中で近隣住民の方にご迷惑をおかけしていないか定期的にご意見をいただいています。また、当社からも定期的に稼働状況を報告す

る場も設定しています。いただいたご意見を真摯に受け止め、改善していくことで、周辺地域の皆様とともに快適でより豊かな社会づくりに努めてまいります。

●地域への奉仕活動

当社も地域の住民であることを念頭に、周辺で開催される夏祭り、秋祭り、年末の行事などに積極的に協力しています。また、毎月、事業所外周の清掃活動を実施して、地域の美化推進に貢献しています。



●社会への貢献

当社では、定期的に従業員に対し献血活動を呼びかけ、「尊い命を救う」活動を行っています。微力ながら地域社会への貢献活動として、これからも社員・関係者による献血活動を継続し、日本赤十字社に協力してまいります。



東京オフィス

所在地 東京都中央区日本橋小網町14番1号 従業員数 12人(2023年6月1日現在)

東京オフィスは、営業部(情報・電子材料グループ、新規材料グループ)と業務部(業務グループ)の3グループ計12人が勤務しています。

1964年に関東地域の販路拡大のため「東京営業所」を開設しました。最初の東京営業所は東京都中央区日本橋室町にありましたが、その後、人形町に移転。更に人員が増加し、執務室が手狭となり、会議室も少ないため、26年間居室したフジタ人形町ビルを離れ、現

在は小網町にある住生日本橋小網町ビルの7階に「東京オフィス」として居室しています。

最寄り駅は日比谷線の人形町駅ですが、都営浅草線の人形町駅、半蔵門線の水天宮前駅からも徒歩5分程度であり、大変利便性の良い立地となっております。



VOICEインタビュー



営業部
新規材料グループ
横山 将吾

営業活動について

私は主にイメージング分野の販売業務を担当しています。顧客の開発スピードに合わせた製品開発のサポートや、需要時期に合わせた製造計画の調整など、キーマテリアルの供給を任されたサプライヤーの営業として、日々業務に取り組んでおります。今後も顧客の要望に合わせた製品やサービスを提案、提供できるよう努めてまいります。

静岡工場

所在地 静岡県掛川市浜野3110 従業員数 93人(2023年6月1日現在)

敷地面積は約64千平方メートル、建屋面積約10千平方メートルの内、生産工場面積が約5.7千平方メートルを占め当社の生産規模の半分以上を占める主力工場。1972年の竣工以来、電子材料やイメージング材料を中心に大規模生産の拠点として数々の製品を生み出しています。静岡工場は「利益造出工場」「開発品の移管工場」と位置づけ、全社の生産資源を最大限有効活用し、低コストな「ものづくり」を行うとともに率先して安全、品質、環境の質を高め、経営戦略課題である生産性の向上に積極的に取り組んでいます。1998年にISO 9002の認証を取得(2003年 ISO 9001に移行)、

2001年にはISO 14001の認証を取得し、顧客満足度を上げる事業活動と環境保全を両立すべく、日々取り組んでいます。



環境保全への取り組み

静岡工場周辺の砂防には、かつて黒松の林が広がり砂丘独特の自然豊かな風景が広がっていました。近年、松枯れ病の蔓延によりほぼ壊滅している状況となっています。これにより、飛砂や塩害が悪化しています。かつての姿を取り戻すべく松枯れ病に耐性のある黒松の植樹に向けた活動を開始しました。元通りになるには、20~30年かかると思いますが、地道に活動を行っています。



地域・社会への貢献

- 毎年6月に実施される掛川市主催の早朝海岸清掃に社員が参加しています。また、12月末には工場周辺の一斉清掃を実施しています。
- 毎年10月に開催される地域の秋祭りに献酒と寄付を行っています。コロナ禍で開催中止となっていたが2022年度は部分的に再開されました。2023年度より全面開催となる予定なので、これからも地域の行事には積極的に協力してまいります。
- 毎年3月に掛川市危険物安全協会主催の春の火災予防運動(掛川駅周辺での街頭広報)に参加しています。



福井工場

所在地 福井県福井市石橋町31字118 従業員数 57人(2023年6月1日現在)

福井工場はテクノポート福井内に当社の第3の製造拠点として1998年から操業を開始しました。敷地面積は9万平方メートルで当社事業所の中で最も大きく、今後の設備増設の中心となります。半導体感光性材料等の電子材料の生産のため、2023年3月に約28億円を投資し、新工場を建設しました。2023年9月には約15億円を投資し、ディスプレイ材料および電子材料生産のため、設備増強を行います。安全第一を基本に置き、無事故・無災害を目指して種々の安全衛生活動に取り組んでいます。ISO 9001、ISO 14001の認

証を取得、高品質を維持しつつ環境保全活動を計画的に推進しています。



環境保全への取り組み

福井県、福井市と公害防止協定を締結し、厳しい規定値を遵守して環境保全に取り組んでいます。工場内に排水の生物処理設備を保有しており、排出基準を満たした処理水をテクノポート福井浄化センターへ排出しています。また、廃液焼却設備も保有しており、各種排出物を適切な方法で処理しています。福井工場では、エネルギー使用量削減、廃棄物削減、放流水中の有害物質管理濃度などの目標を定め、環境保全活動に取り組んでいます。



地域・社会への貢献

- 福井県のゴミ拾い活動「ビリカ」に参加し、毎月、事業所外周道路の清掃を行っています。
- 事業所内の緑地帯の管理を行っています。

